

学級備え付けの図書のことを「学級文庫」といいますが、読書活動の一環として、あるいは学級活動のひとつとして学級文庫を設置している教師は数多くみられます。公開授業等で小中学校を訪れた時に学級文庫をのぞいてみると、児童小説の単行本や小中学生向けの〇〇文庫といったものがほとんどです。このような本は教室に置かなくても学校の図書室や公共図書館で読むことが出来ますので、図書室にないような別の本もぜひ置いてほしいと思います。

この「新聞なるほど講座」を閲覧している人は、NIEを進めているか、これから行おうとしている人でしょうかから、ぜひ、NIE関連の本やNIEに必要な資料等も並べてほしいです。子どもたちが新聞を読んで疑問に思ったり、よく分からなかったりする時に、手助けとなるようなものもあった方がよいでしょう。年鑑、大きな辞典（広辞苑、大辞泉など）、カタカナ語辞典、逆引き辞典、反対語辞典、人物辞典、地図帳などがあると便利です。

テレビは、よほど注意深くメモしながら見ていないと情報は目の前を通り過ぎていってしまいます。新聞は、疑問点等は例えば蛍光ペンで塗りながら読み、後でじっくり調べることが出来るのです。ニュースや「情報」などの確認・反復が手軽に素早くできることも新聞のよさです。このようにして新聞を読んでいくと学力向上にもつながります。

次のような本も先生がまず購入し読んだ上で、文庫に入れることを検討してください。

「新聞をつくろう」(さ・え・ら書房)▽「新聞の読みかた」(岩波ジュニア新書)▽「新聞わくわく活用事典」(PHP研究所)▽「学習新聞のつくり方事典」(PHP研究所)▽「新聞授業ガイドブック改訂版」(2015年に朝日新聞社が発行・無料配布)

(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)